

第57回

貞香書展

2023.6.28^水～7.10^月

(7.4^火は休館日)

国立新美術館 3A 港区六本木

10:00～18:00(入場は17:30まで) 最終日は15:00閉館(入場は14:00まで)
〈入場無料〉 ご高覧いただけると幸いです。

主催・貞香会

会長 赤平泰処
理事長 光谷素仙

後援・毎日新聞社

(一財)毎日書道会

(公社)全日本書道連盟

貞香会事務所

〒135-0007

東京都江東区新大橋

1-5-4-211 根本方

TEL 03(6284)0466

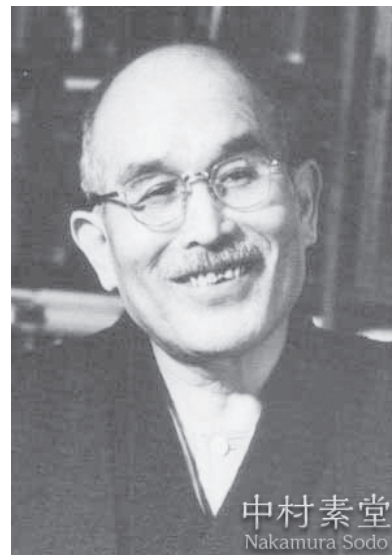
FAX 03(6284)0467

貞香会とは

貞香会は、大正12年（1923）に書文化の研究と、書芸術の創造を目指して中村素堂が創立し、今年で100周年を迎えました。この間、北京・中国美術館（1999・2005年）、台北・国立歴史博物館（1991年）等での海外展も開催してまいりました。毎年、貞香書展・貞香会総合書展を開催し昨年度は、創立100年記念展を国立新美術館で開催しました。また、毎日書道展、東方書展にも参画しております。

創設者

中村素堂（1901-1982）は、静岡県に生まれ、15歳で西川春洞の高弟・武田霞洞に師事しました。日本書道美術院、毎日書道展、東方書展の創設に参画し、書壇の再建に努めた近代日本を代表する書作家で、歌人でもあります。その書風は硬質の書を信条として、新文人主義、仏教を根底に置いた書を発表してまいりました。大正大学名誉教授で、武蔵大学をはじめ多くの教壇に立ち、後進の育成、書教育の普及にも邁進しました。また、生涯を通じて蒐集した古今の墨蹟・絵画・古写経をはじめとする系統だった書の研究資料は、後進の研究者のために一括して江戸東京博物館に収蔵されています。



第57回貞香書展入賞者

特別賞・審査会員推挙 鈴木 芳草 山崎 香彩
推薦・会員推挙 今井 文子 峯岸 妙観

公募1部

■特選

漢字多字数部門 原 美鈴 奥備 愛 佐藤 穂徑 塩濱 花菜

■準特選

漢字多字数部門 浅野 照雄 小山真裕美 中村 泰子 村山 順子 渡邊 智香
小山 綾香 上野 優羽

漢字少字数部門 奈良田圭亮

■秀作

漢字多字数部門 岡 聖紅 海老原耶々 伊藤ゆうか 滋野 綾菜 星野 玲香
大木 珠芳 内山 富美 谷田貝美桜 広田 瑣葉 松野 澄水
福田香朱美 吉村 幸子 田杭 敬心 豊田 瑞空 大嶋 碧
大河内秀丸

■高校生奨励賞

漢字多字数部門 伊澤 凜 上野 心優 泉田 絢音 大塚可南子 篠崎 夢奈
漢字少字数部門 松本 千尋 古口 歩佳

公募2部

■特選

漢字多字数部門 山中 恵理 山内 俊子
漢字少字数部門 遠藤真佐美

■準特選

漢字多字数部門 市村 星華 角田 眞理
漢字少字数部門 川口 杏苑 萩原 柊花 山口 和彦 池上 智子

■秀作

漢字多字数部門 高橋英美子 瀧澤 理子 芳田 晏奈
漢字少字数部門 山内 開 梅澤 恵子 吉岡 紀子 井上かれん 齋藤 節子
戸崎 勝彦

仮名部門 中村 玲香

詩文書部門 ローゼンフェルド 朋子

■高校生奨励賞

漢字少字数部門 石井佳奈芽

第57回貞香書展出品者

特別展示

遺墨 中村 素堂 先生「認驢作馬」

会長

審 赤平 泰処 〔東京〕 李斯伝

顧問

審 荒木 大樹 〔東京〕 蘇東坡句

中村 青藍 〔埼玉〕 「無窮」

審 中村 素岳 〔埼玉〕 戴叔倫句

参与

奥山 泰嶺 〔埼玉〕 中尊寺建立供養願文一節

後藤 鶴台 〔山形〕 「寿量無数劫」

中谷 春徑 〔東京〕 和歌一首

松本 宜響 〔栃木〕 學書（自作）

若井 香樹 〔東京〕 井上靖詩（「生涯」一節）

参事

審 柏木 南城 〔東京〕 「学而時習之」

加茂 泰玄 〔栃木〕 「虚往実帰」

審 中村 東泉 〔千葉〕 杜甫詩

二木 秀蔭 〔埼玉〕 李白詩

山根 紅樹 〔東京〕 李白詩（二詩）

理事長

審 光谷 素仙 〔神奈川〕 韋應物詩

副理事長

審 坪内 雪山 〔新潟〕 良寛詩

審 根本 泰邱 〔千葉〕 王昌齡詩

（事務局長兼任）

事務局次長

飯野 彩心 〔栃木〕 白居易詩

審 鈴木 蓮徑 〔栃木〕 「穰穰滿家」

理事

飯野 柳籬 〔埼玉〕 李白詩

今井 泰篁 〔東京〕 「提甕汲荷鋤耕」

海野 蒼秀 〔埼玉〕 盧僊詩

加地 香泉 〔東京〕 杜審言詩二首

川島 栖園 〔埼玉〕 韓愈詩二首

審 永井 静軒 〔埼玉〕 白洲正子のうた
（「明恵上人の犬」より）

審 中村 香柯 〔埼玉〕 「謹重嚴毅氣度雄遠」

審 浜瀬 碧水 〔東京〕 蘇東坡詩一節

半田 桃香 〔静岡〕 菅茶山詩

監事

大塚 澄心 〔埼玉〕 劉沅虚詩

審 長尾 泰邨 〔青森〕 「高情遠致」

評議員

審 秋田谷岱空 〔千葉〕 柳宗元詩

石原 翠山 〔東京〕 白居易詩

審査会員

赤尾 真堂 〔兵庫〕 「光明偏照」

五野 雪香 〔東京〕 良寛のうた

岩崎 芳穂 〔茨城〕 盛錦詩

岩田 映洞 〔埼玉〕 九言二句

岩渕 響泉 〔栃木〕 千字文一節

上野 泰僊 〔埼玉〕 白楽天詩

浦野 西萌 〔埼玉〕 李頎詩

沖 素宮 〔埼玉〕 寒山詩

小澤 茜逕 〔東京〕 「剛健篤実」

審 亀和田郁芳 〔栃木〕 「龍吟虎嘯」

倉石 芳園 〔埼玉〕 查慎行詩

後上 菁華 〔埼玉〕 岑參詩

審 小峰 紀州 〔千葉〕 吳鎮句

近藤 朗詠 〔埼玉〕 蔡毅中詩

酒井 芳華 〔岐阜〕 劉禹錫詩

佐藤 光華 〔埼玉〕 尾崎放哉句

杉戸 泰岳 〔埼玉〕 宋楽詩

鈴木 大嘉 〔新潟〕 「看脚下」

高木 素近 〔東京〕 陶淵明句

高橋 珠翠 〔東京〕 鮑溶詩

武内 陽華 〔埼玉〕 笛吹地蔵雑感（自詠）

富田 青軒 〔千葉〕 菜根譚一節

中田 翠苑 〔千葉〕 杜荀鶴詩

中村 汀華 〔埼玉〕 「靜黙治道」

日向野光苑〔千葉〕 式子内親王のうた
 平澤 大廣〔栃木〕 李白詩
 藤田 彩緒〔埼玉〕 草野心平詩
 細田 香瑤〔千葉〕 蘇東坡詩
 真下 良祐〔千葉〕 古筆の歌（自作）
 三浦 看山〔神奈川〕 陶淵明詩
 三上 大岑〔島根〕 「物薄情厚」
 光田 秀穂〔埼玉〕 若山牧水のうた
 矢口 昌華〔千葉〕 高適詩
 渡辺 蒼秀〔神奈川〕 杜甫詩

会員

青木 香露〔東京〕 祖詠詩
 石山 心茜〔埼玉〕 白居易詩
 上坂 木蘭〔東京〕 李白詩
 大石 碧堂〔静岡〕 蘇頌詩
 大恵田萌音〔千葉〕 沈佺期詩
 金子多恵子〔神奈川〕 王維詩
 北井 杏怜〔東京〕 王維詩
 草間 篁山〔新潟〕 岑參詩
 佐伯 麗子〔東京〕 佐伯静子の歌四首
 佐藤 観雨〔東京〕 臨 曹全碑一節
 佐怒賀昌琴〔埼玉〕 自詠句
 下川 翠雨〔東京〕 林逋詩
 白根 如雪〔東京〕 萩原朔太郎詩
 鈴木 芳草〔埼玉〕 白楽天詩
 鈴木 玲香〔千葉〕 杜甫詩
 関根 熙雲〔群馬〕 丘濬詩
 高橋 桂祉〔埼玉〕 柳宗元詩
 富田 希〔長崎〕 岑參詩
 長尾 貫清〔青森〕 孟浩然詩
 中島 翠音〔静岡〕 張南史詩
 原田 豊蘭〔東京〕 若山牧水の歌三首
 松田 翠心〔東京〕 柳原白蓮の歌
 室井 佳鶴〔千葉〕 郭公
 室田 彩翠〔東京〕 喜怒哀楽（自詠詩）
 山崎 香彩〔埼玉〕 張説詩
 横張 瑞泉〔茨城〕 林鴻詩
 渡邊 芳香〔埼玉〕 杜甫詩

委嘱

池田 詠香〔埼玉〕 自詠詩
 池田 紀子〔栃木〕 杜甫詩
 市川 賀雪〔青森〕 呉寛詩
 伊藤 白珠〔千葉〕 臨 寸松庵色紙
 今井 文子〔栃木〕 臨 中務集
 上杉 香荘〔東京〕 釈古梁詩
 江藤 静蘭〔東京〕 岑參詩
 大島 翠玲〔東京〕 沈佺期詩
 川端 正廣〔東京〕 梅堯臣詩
 越川 淑泉〔千葉〕 杜甫詩
 佐藤 史帆〔静岡〕 高適詩
 塩野 洋子〔栃木〕 七言二句
 志太 恵佳〔千葉〕 いにしえのうた（「万葉集」より）
 篠原 翠峰〔東京〕 蘇東坡詩一節
 清水 天悠〔栃木〕 「俱會一處」
 鈴木 英男〔栃木〕 孟浩然詩
 田辺 由美〔神奈川〕 沈佺期詩
 土屋 秀樹〔千葉〕 杜甫詩
 壺井 翠櫻〔東京〕 賈至詩
 長瀬 亮一〔東京〕 常建詩
 奈良田有亮〔埼玉〕 李白詩
 根布谷翠紅〔東京〕 白居易詩
 野村 佳鈴〔千葉〕 賀知章詩
 林 玉凜〔東京〕 杜甫詩
 飛田 静風〔千葉〕 孟浩然詩
 保坂 登志〔栃木〕 七言二句
 松下 彩虹〔東京〕 陶淵明詩一節
 松本 芳琇〔埼玉〕 王偁詩
 峯岸 妙観〔東京〕 王維詩
 和田 芳華〔栃木〕 杜甫詩
 渡邊 萌苑〔東京〕 蘇東坡詩

会友

浅野 照雄〔東京〕元好問詩
牛村ひろみ〔東京〕范成大詩
大木 珠芳〔千葉〕杜審言詩
岡 聖紅〔東京〕孫逖詩
奥備 愛〔埼玉〕杜甫詩
小山真裕美〔埼玉〕岑參詩
国貞 史絵〔東京〕「雲開萬壑春」
佐藤 穂徑〔栃木〕杜甫詩
曾根 濤青〔静岡〕杜甫詩
田杭 敬心〔千葉〕李白詩
中上 和美〔東京〕歐陽修詩
長畑 裕子〔東京〕李白詩
邊見 珠鳳〔埼玉〕杜甫詩
星野 玲香〔東京〕杜甫詩
村山 順子〔埼玉〕陸游詩
松野 澄水〔東京〕夏目漱石詩

公募Ⅰ部出品者

荒井 翔雲〔東京〕陶淵明詩一節
伊澤 凜〔栃木〕陶淵明詩
泉田 絢音〔栃木〕林鴻詩
伊藤ゆうか〔埼玉〕李白詩
上野 心優〔栃木〕杜甫詩
上野 優羽〔栃木〕徐中行詩
内山 富美〔静岡〕孟浩然詩
海老原耶々〔栃木〕李頎詩
大河内秀丸〔東京〕陶淵明詩一節
大嶋 碧〔埼玉〕張說詩
大塚可南子〔栃木〕陶淵明詩
北畠 妃恵〔東京〕韋莊句
小泉 直子〔神奈川〕白居易詩
賈 宇彤〔東京〕李煜詩
古口 歩佳〔栃木〕李良年句
小森谷百合子〔埼玉〕惲壽平詩
小山 綾香〔埼玉〕崔國輔詩
塩濱 花菜〔栃木〕張說詩
滋野 綾菜〔栃木〕張說詩
篠崎 夢奈〔栃木〕陳子昂詩
高木 春嶺〔新潟〕王維詩
豊田 瑞空〔静岡〕杜審言詩
長田 晴海〔東京〕高駢詩
中村 泰子〔埼玉〕高詠詩
奈良田圭亮〔千葉〕「崇德廣業」
根本 悠彩〔千葉〕岑參詩
原 美鈴〔神奈川〕張南軒詩
広田 瑣葉〔東京〕許渾詩
福田香朱美〔栃木〕高啓詩
松本 千尋〔栃木〕薩天錫句
水須 涼華〔千葉〕杜審言詩
谷田貝美桜〔栃木〕李白詩
吉村 幸子〔埼玉〕柳完元詩
渡邊 智香〔栃木〕祖詠詩
渡邊 陽奈〔栃木〕杜甫詩

公募Ⅱ部出品者

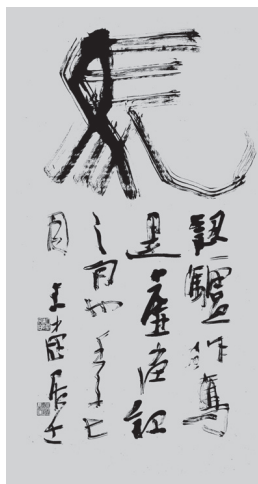
五十嵐来美〔埼玉〕袁士元句
伊草かおり〔埼玉〕王倩詩
池上 智子〔東京〕文徵明句
石井佳奈芽〔東京〕「氣新光照」
市村 星華〔栃木〕孟浩然詩
井上かれん〔栃木〕李東陽句
梅澤 恵子〔東京〕韋幼武句
遠藤真佐美〔神奈川〕許渾句
門脇 花〔埼玉〕若山牧水のうた
川口 杏苑〔千葉〕「水声松韻一溪深」
小林 典子〔埼玉〕韋莊句
近藤 涼也〔埼玉〕白樂天詩
齋藤 節子〔東京〕「心華」
寄山 順華〔静岡〕眞山民句
田尾紗奈江〔東京〕大伴坂上郎女の歌
高橋英美子〔東京〕李白詩
瀧澤 理子〔埼玉〕李白詩
角田 眞理〔東京〕蘇軾詩
戸崎 勝彦〔栃木〕七言二句
永井 直子〔東京〕房皐句
仲野 好重〔東京〕高杉晋作の歌
中村 玲香〔東京〕兼好法師の歌
西田 咲〔埼玉〕「有志事竟成」
野口佐和子〔東京〕持統天皇のうた
萩原 柊花〔千葉〕王維詩
村田 良苑〔千葉〕韋莊詩
山内 開〔神奈川〕李白詩
山内 俊子〔青森〕李白詩
山口 和彦〔栃木〕沈受宏詩
山崎 遥〔東京〕紀友則の歌
山中 恵理〔埼玉〕于武陵詩
山本 幸三〔東京〕曹操詩
湯本 彩愛〔埼玉〕幸田露伴句
吉岡 紀子〔神奈川〕謝偃句
芳田 晏奈〔東京〕李華詩
米山 聖〔神奈川〕蘇軾詩
ロゼッタ朋子〔東京〕奥の細道一節
渡邊 彩華〔東京〕孟浩然詩



会長
赤平泰処



遺墨
中村素堂先生



顧問
中村素岳



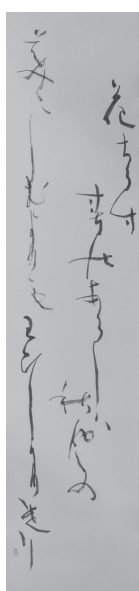
顧問
中村青藍



顧問
荒木大樹



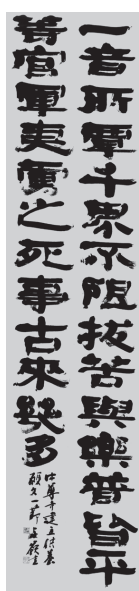
参与
松本宜響



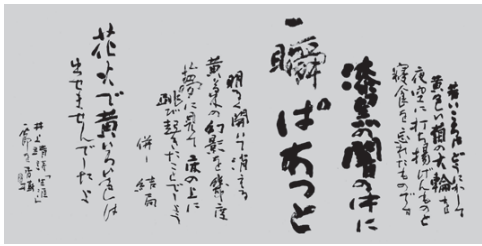
参与
中合春径



参与
後藤鶴台



参与
奥山泰嶺



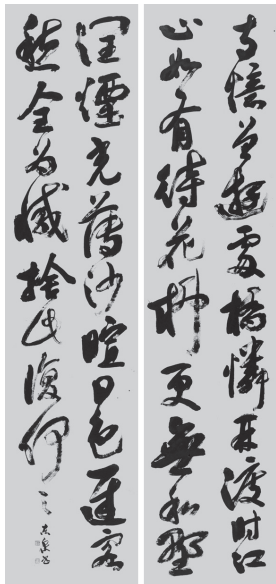
参与 若井香樹



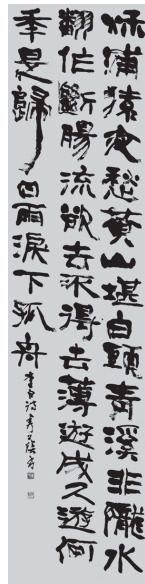
参事 柏木南城



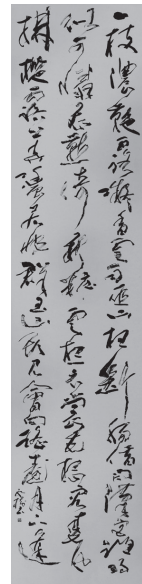
参事 加茂泰玄



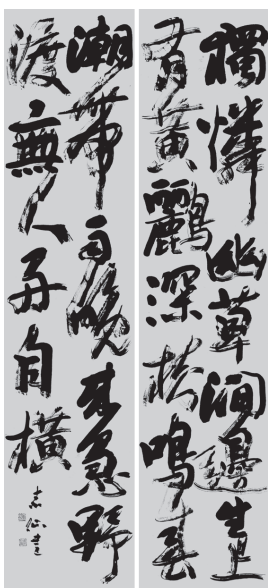
参事 中村東泉



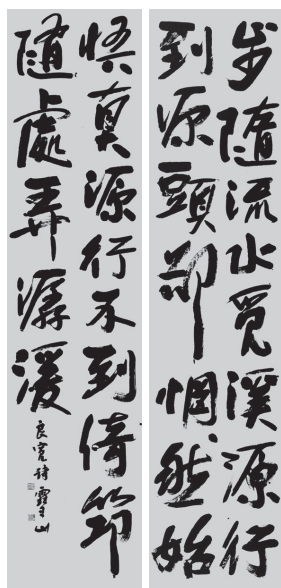
参事 二木秀蔭



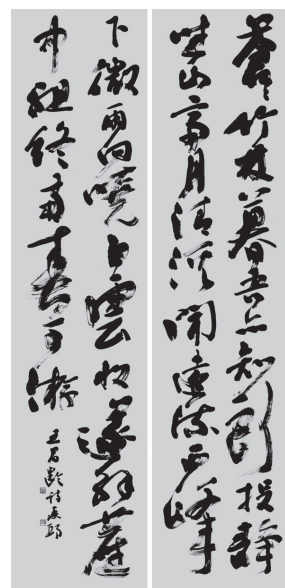
参事 山根紅樹



理事長 光谷素仙



副理事長 坪内雪山



副理事長・事務局長 根本泰邸

理事 飯野柳舩

懷滿家

事務局次長・理事 飯野彩心

理事 加地香泉

去國三
遠登樓
萬里春傷
浩之宮不
是故鄉
人

癸卯夏月
公青主

理事 今井泰篁




理事 永井静軒

理事 中村香柯

氣度雄姿

理事
川島栖園

山公澤禪師徑微者云寺伽藍殿開窓臨新造是甚
 遠者乃僧主碑一佛窗壁生東壁有先師額特掃常置
 其後疏鑿是飽指肌刺指節如地地清一室嶺之能天明
 即之無道姑之上下常煙雲紅潤然松樹漫時見松栢松
 皆十圍常陰蓋瑞國名之碑一漱食之令人思言其法
 堂者乃東人撰之碑曰法三子中法者亦法三碑也

明月雙時有把酒
問青天不知天上宮
闕今夕是何年
我欲乘風歸去

理事 浜瀬碧水

何處尋涼去
窮壁水源泉
從庭際涌雲
傍屋端屯大
石晴猷濕
長林午欲昏
尋涼何處好
涼在水源邨

理事 半田桃香

道由白雲盡
暮與青溪長
時有落帆聲
一葉逐流水香
開白之路
溪橋讀書堂
映在自清輝
照亦清

監事 大塚澄心

高情遠致

監事 長尾泰邨

人生如夢轉眼即逝
國事如棋變化無常
惟此心不動
乃為真常
此身如夢
此心不動
乃為真常
此身如夢
此心不動
乃為真常

評議員 石原翠山

人生如夢轉眼即逝
國事如棋變化無常
惟此心不動
乃為真常
此身如夢
此心不動
乃為真常
此身如夢
此心不動
乃為真常

評議員 秋田谷岱空



特別賞・審査会員推挙
山崎香彩

特別賞・審査会員推挙
鈴木芳草

推薦・會員推挙 峯岸妙觀

推薦・會員推挙 今井文子

公募1部特選
塩濱花菜

公募1部特選 佐藤穂徑

公募1部特選 奥備 愛

公募1部特選 原美鈴

貞香書展

◆貞香書展は、会員展と公募展で構成されています。

◆公募部門には、年齢満15歳（高校生）以上の方どなたでも第1部・第2部どちらかに出品することができます。

◆作品の大きさで第1部・第2部に分かれ、それぞれに、漢字多字数部門（21文字以上）・漢字少字数部門（1～20文字）・仮名部門・詩文書部門があります。

◆作品の表装など取扱の全般を指定表具店に依頼しています。



貞香会総合書展

◆貞香会総合書展は、会員展と公募「書範展」で構成されています。

◆公募「書範展」にはどなたでも出品できます。◇一般部：高校生以上、1人1点 ◇教育部：幼児・小学生・中学生、1人1点 ◇半紙部：どなたでも何点でも

◆出品料は次の通りです。◇一般部：14,000円（大学生12,000円・高校生10,000円）※標準軸装代含む ◇教育部：3,500円（※仮巻ベタ貼り表装代含む）◇半紙部：800円（※裏打ち代含む）

◆'24貞香会総合書展の会期は2024年1月20日（土）～26日（金）まで。東京都美術館（ロビー階第3展示室・ギャラリーA）で開催します。

◆公募「書範展」作品の取扱全般は貞香会書範部が行います。

洗碑会

創設者・中村素堂生誕日の5月2日に東京小石川・伝通院にある中村素堂記念碑（「如是我聞」碑）前で催される先師の遺徳を讃える会です。全国から子弟・関係者が集まり、碑文を前に書作への思いを新たにします。記念碑は、開門時間中はいつでも拝観できますので、お近くにおいでの際はお気軽にお立ち寄りください。

（伝通院 URL：<http://www.denzuin.or.jp>）



講演会

貞香会では貞香書展の会期中に講演会を開催しています。本年度は、淑徳大学人文学部教授の小川博章先生をお招きして、「全形拓本の様相」という演題でご講演いただきます。



(二〇二三年撮影)

近年の講演会開催実績（※講師の先生方の所属等は、講演当時のものです。）

- 2022年 六人部克典先生(東京国立博物館学芸研究部調査研究課東洋室研究員)
「中国書画コレクションの伝統と日本」
- 2019年 恵美千鶴子先生(東京国立博物館百五十年史編纂室長)「平安時代の書の美」
- 2018年 高橋利郎先生(大東文化大学教授)「近代日本の書」
- 2017年 笠嶋忠幸先生(出光美術館学芸課長)「古典鑑賞と書作」
- 2016年 鍋島稲子先生(台東区立書道博物館主任研究員)
「中村不折と書道博物館コレクション」
- 2015年 大西克也先生(東京大学教授)「楚簡・秦簡より見た戦国時代の漢字について」
- 2014年 富田淳先生(東京国立博物館学芸研究部列品管理課長)
「書譜と黄州寒食詩卷—台北故宮博物院の名跡から—」
- 2013年 名児耶明先生(五島美術館学芸部長・東京学芸大学非常勤講師)
「仮名の散らし書きと日本美」
- 2012年 伊藤滋先生(東京学芸大学非常勤講師・岐阜女子大学特別客員教授)
「日本に所蔵される名帖～碑法帖拓本の世界～」
- 2011年 島谷弘幸先生(東京国立博物館副館長)「書の変遷 その必然性と未来」
- 2010年 杉村邦彦先生(京都教育大学名誉教授・書論研究会会長)
「多胡碑の朝鮮・中国への流伝とそれにかかわった人たち」

競書誌『書範』

◆貞香会の競書誌で毎月1日に発行されています。創設者中村素堂先生の随筆や、貞香会関係の展覧会情報などが掲載されています。ぜひご一読ください。

◆詳細については、貞香会事務所までお問い合わせください。

〒135-0007 東京都江東区新大橋1-5-4-211

TEL：03-6284-0466



貞香会100周年のあゆみ

(西暦)

- 1923 貞香会創立
- 1927 第1回「祭墨会」開催(以降1982年の第45回まで開催)
- 1932 貞香書道会研究会開催(以降100回まで開催)
- 1949 第1回貞香会書作展(小石川・傳通院)
- 1955 貞香書道会研究会第100回記念展覧会(小石川・傳通院)
- 1958 東方書道院に参画、新興書道展に参画
- 1961 中村素堂還暦個展(銀座・松屋)
- 1963 第1回臨書会開催(隔月開催)
- 1970 中村素堂古稀個展(銀座・三越)
- 第1回一徽会書展(日本橋・柳屋画廊 第6回以降貞香会同人展に吸収合併)
- 1972 事務局を佐藤中処方に置く
- 1973 第8回貞香会書作展(上野の森美術館 第11回まで同会場にて開催)
- 機関誌「祭墨」発刊(11号まで刊行)
- 1975 貞香会同人展(第12回まで毎年開催)
- 1976 第11回貞香会展(東京都美術館 以降第41回まで同会場にて毎年開催)
- 1978 貞香会女流展(第7回まで開催)
- 1979 貞香会新人展(第3回まで開催)
- 1980 第1回貞香会訪中団(北京・洛陽・西安)
- 1981 社中有志により東京書範社を創立。「書範」誌を発刊
- 1982 第2回貞香会訪中団(山東省鄭道昭摩崖碑・泰山碑林・曲阜碑林)
- 貞香会創立60周年記念祝賀会・第45回祭墨会(帝国ホテル)
- 7月14日 中村素堂逝去
- 第1回書範社展(以降毎年開催)
- 1984 中村素堂遺墨展(銀座・和光ホール)
- 『中村素堂遺墨集』刊行
- 改組第36回毎日書道展(東京都美術館)に参画
- 1985 中村素堂歌集『ふちばかま』上・下刊行
- 1987 第2回貞香会小品展(銀座・カトレアサロン 以降第20回まで同会場にて毎年開催)
- 1988 中村素堂随想集『筆間雜記』出版
- 1991 貞香会展25回記念「貞香会訪華代表書作家展」(台湾国立歴史博物館)
- 1993 貞香会講演会(大正大学)講師:中国甘肅省文物考古研究所・何双全先生
- 演題「中国木簡発掘の現状」
- 1994 第3回貞香会訪中団(北京・ウルムチ・トルファン・敦煌)
- 1995 貞香会70周年・貞香会展30回記念展(東京都美術館)
- 中村素堂記念碑建立(小石川・傳通院境内)
- 貞香会研修会(山梨・大門碑林ほか)
- 1996 中村素堂記念碑「洗碑会」開催(以後毎年開催)
- 貞香会講演会(大正大学)講師:角井 博先生 演題「明清の書」
- 1997 中国西安驪山公園に中村素堂書碑建立
- 第4回訪中団(北京・西安・漢中・上海)
- 1999 第34回貞香会展(東京都美術館)中村素堂誕辰一百周年記念「貞香会書法展」
- (中国北京市・中国美術館)
- 第5回訪中団 中村素堂誕辰一百周年記念
- 「貞香会書法展」報告展(銀座・カトレアサロン)
- 2001 『書家 中村素堂の遺品』展 江戸東京博物館にて開催
- 千葉県立美術館で千葉県書道協会展に中村素堂遺作展を併催
- 2002 貞香会展を「貞香書展」に改名
- 2003 貞香会80周年記念・第38回貞香書展(東京都美術館)
- 2005 貞香書展第40回記念事業 第2回北京書法展(中国北京市・中国美術館)
- 2007 '07 貞香会総合書展(東京都美術館 以降現在に至る)
- 第42回貞香書展(国立新美術館 以降現在に至る)
- 2008 赤平泰処 第21回毎日書道顕彰書道部門受賞
- 2013 貞香会創立90周年記念・第48回貞香書展(国立新美術館)
- 2014 中村素堂33回忌法要(小石川・傳通院)
- 2015 貞香会創立93年 第50回記念貞香書展開催(国立新美術館)
- 2019 赤平泰処 第71回毎日書道展文部科学大臣賞受賞
- 2022 貞香会創立100周年記念第56回貞香書展開催(国立新美術館)

展覧会のご案内

令和5年(2023)

○第74回 毎日書道展(東京展)

会場：国立新美術館 会期：7月12日(水)～8月6日(日)

※毎週火曜は休館日。毎週水曜は、午後1時開会。

入場は閉会30分前まで

会場：東京都美術館 会期：7月19日(水)～7月24日(月)

※入場は閉会30分前まで。

○第54回 墨光書展

会場：春日部市民文化会館 会期：10月6日(金)～9日(月) 10:00～18:00

○第37回 西蓮会書展

会場：銀座かねまつホール 会期：10月13日(金)～17日(火) 11:00～18:00

令和6年(2024)

○'24貞香会総合書展 会員展・書範展

会場：東京都美術館 会期：1月20日(土)～1月26日(金)

書範展にはどなたでも出品できます。詳細は11頁をご覧ください。

本日は第57回貞香書展にご多用中にもかかわらずご光来賜りご懇情をいただき誠にありがとうございました。皆さまのお言葉を励みに会員一同書の道に精進してまいります。

今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。本来ならば拝眉の上ご挨拶申し上げるべきところ、御礼とさせていただきます。

令和5年6月28日
第57回貞香書展出品者一同